

日本の大切な歴史と文化の交差点 川越街道白子宿通りから大坂通りに約 150 年佇んだ「佐和屋」解体  
白子の古民家「佐和屋」を残したい (2022 年 7 月 22 日)

NPO 和光・緑と湧き水の会 (代表：高橋絹世 理事：高橋勝緒 ) 堀文雄 (大阪ふれあいの森会長)

この写真をご存じでしょうか？

旧川越街道沿の白子ある「佐和屋」です。

これから「佐和屋」が歴史的にも自然環境的にも、日本でいかに大切な場所か説明したいと思います。



2016 年頃撮影：佐和屋



明治時代に撮影：佐和屋



和光市は古くは縄文時代から、人間が住みやすい場所として利用され、その名残として縄文の居住跡が残っています。住みやすさはその後も継続し、江戸、明治と時を経ても、宿場町として栄えてきた歴史があるようです。川越街道ができ、電車ではなく馬車が行き交う明治時代の頃に「佐和屋」が建てられたのではと思います。歴史的にも重要な白子宿の面影を実感できる場所はこの「佐和屋」しか現存しておらず、実際に和光市では景観 10 選に選ばれています。

歴史的な価値だけではなく、和光市を美しく住みやすい街として維持していく自然保護の視点からも、大変貴重な環境に「佐和屋」があります。周辺には、和光市景観 10 選に選ばれた「大坂ふれあいの森」や「熊野神社」があります。「佐和屋」の広大な庭を含む敷地と、「大坂ふれあいの森」「熊野神社」は地質的にも、湧き水と生活という視点からもつながった存在であり、建物だけでなく水と一体となった生活圏として唯一現存する場所なのです。さらに白子湧水群の要である白子宿特別緑地保全地区の富澤湧水が佐和屋の敷地の浦山に隣接し、湧水群の一角をなしています。

景観 10 選に選ばれた佐和屋、



大坂ふれあいの森、熊野神社および富澤湧水

江戸時代の古文書には「此の白子宿の左右には清潔の水がみなぎり流れて潤沢なるは、もっとうらやまし」と表現されています。和光市の特徴である「湧き水」と「緑」に囲まれた「民家佐和屋」は、まさにその時代の要素をすべて現存する象徴的な建物で、このような景観は和光市の自然と文化的遺産と言えるほどで、保存される意義は大きいと思います。

現代は、どんどん歴史的価値のある場所が近代的な建物に置き換えられてしまう時代で、ここまで貴重な歴史と文化を実感できる建物は、壊してしまったら二度と戻らないものと思います。改めて、歴史的観点、文化自然環境保護的観点、和光市の価値向上の観点からも、佐和屋を保存していくことは大変意義があると考えています。

資料として地図と写真で、位置関係と緑地湧水地のつながりを紹介します。

## 白子宿の名残を残す「佐和屋」の解体前の「佐和屋の建物内見学会」

2024年7月5日

(仮称)和光市史和子2丁目PJ新築工事 解体工事説明会

2024年6月26日(水) 白子コミセンで「佐和屋」の解体工事説明会がありました。

当会、白子大坂ふれあいの森の会から参加しました。

解体前に一度建物内および敷地内の見学を申し出て、ようやく7月5日、10時～11時に見学が出来ました。既に敷地内の緑地は緑に覆われ、滝が良く見えませんでした。以前富澤湧水からこの敷地内を見る機会があり、その時には、庭に落ちる滝を見ることが出来ました。

滝の写真、見学時の建物の写真を紹介します。

このような歴史的建物が失われると、和光市白子という街が失われる思いです。

明治、大正、昭和、平成、令和をつなぐ150年余りの歴史が、消え去り、記憶も薄くなるでしょう。

